

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

今週の注目材料=日米金融政策会合に注目

2025年3月17日

18日、19日に日銀金融政策決定会合と米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催されます。ともに政策金利は現状維持の見込み。ただ、今後に向けての見通しが揺れる中で、声明や会見などにかかなりの注目が集まっています。

まずは日銀会合。日本銀行は昨年3月に2016年1月に導入したマイナス金利を解除、7月の利上げを経て、前回1月も追加利上げを実施し、政策金利は0.5%となっています。

1月に利上げをしたところということもあり、今回は据え置きで見通しが一致しています。専門家予想は据え置きで一致、短期金利市場でも98%超が据え置きとなっています。マーケットの注目は次の利上げ時期と利上げのペース、ターミナルレート(最終到達水準)となっており、そうした予想に影響を与える声明と会合後の植田総裁会見が注目されています。

現時点では5月までの利上げを20%程度、6月までの利上げを50%程度見込んでおり、6月時点で利上げと据え置きが拮抗します。7月までには80%が利上げを見込んでおり、年内1回という見方が大勢。年2回利上げが30%程度という状況です。

声明や会見でこうした見方にどのような変化があるかがポイントとなります。ただ、基本路線として、展望レポートに沿った経済・物価の見通しが実現していくとすれば、それに応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくという、これまで繰り返してきた方針を維持するとみられており、それ以上に突っ込んだ話などが出てくるかどうか。

3月12日に集中回答日を迎えた2025年春闘は、トヨタやイオンが満額回答を示すなど、かなり好調なものとなっており、石破首相をはじめ主要経済閣僚からも心強いとの発言があるなど、賃上げに向けた動きがしっかりとしているだけに、植田総裁の態度次第では市場の利上げ期待が強まる可能性があります。

5月の利上げが大勢となるのはさすがに難しいと思われませんが、利上げと据え置きで見通しが拮抗している6月の見通しが利上げに傾くようだと円買いにつながると見込まれます。ドル円は11日に付けた直近安値146円54銭トライの可能性がありますが。ただ、同日に米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果が発表されますので、FOMC待ちとなる可能性もありそうです。

米FOMCも政策金利は現状維持見込みです。米連邦準備制度理事会(FRB)はアフターコロナの物価上昇で5.25-5.50%まで引き上げた政策金利について、昨年9月に0.5%引き下げ、その後11月、12月と0.25%づつの利下げを実施し、4.25-4.50%としました。前回1月は据え置きに回っており、今回も据え置きが見込まれています。

据え置きとなった前回会合での声明では、米国の物価動向についての表現を、12月までの、インフレ率は2%の物価目標に向けて進展しているが、依然としていくぶん高止まりしているというものから、インフレ率は依然としてやや高めであるに変更。ややタカ

派な印象を与える変更となりました。ただ市場の行き過ぎた反応を警戒してか、議長は前回会合後の会見の冒頭で、インフレ率は依然としてやや高止まりも、2%という長期的な目標にかなり近づいていると発言しています。また、政策スタンスが以前よりも大幅に緩和され、経済も依然として堅調となっており、政策を急いで調整する必要がないと、1月に据え置きとなった理由を説明しています。

今月発表された2月の米消費者物価指数前年比は総合、コア共に市場予想値及び前回値を下回る伸びにどまっており、利下げのハードルを下げています。ただ、トランプ大統領による関税強化政策の影響が出てくるのはこれからと見られており、警戒感もあって下げにくい面もあります。

今回のFOMCでも声明や会見での表現に要注意です。

なお、今回は声明と会見に加えてFOMCメンバーによる経済見通し(SEP: Summary of Economic Projections)が発表されます。12月のFOMCで発表された前回のSEPでは、年末時点での政策金利見通しを示すドットプロットでの中央値が3.75-4.00%となり、2025年中2回の利下げ見通しが示されました。その前9月のドットプロットでは3.25-3.50%が中央値でしたので0.5%の変更です。

現在米金利先物市場では12月末時点での政策金利を3.50-3.75%と予想しておりドットプロットよりもややハト派です。こうした市場見通しに沿った変化があるかどうかのポイントとなります。金利市場の見通し通り今後の利下げ期待が強まるようだと、ドル売りとなります。ドットプロットの結果だけでなく、前回PCE価格指数、コアPCE共に2025年末時点で前年比2.5%との予想となった物価見通しの引き下げなどがあると、米国の早期利下げ期待につながります。日銀の会合と合わせドル売り円買いとなる可能性があり、145円台トライも十分に視野に入ってきます。

山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシズ 編集長

1992年チェスマンハットン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。